

研究・調査報告書

報告書番号	担当
5 5	滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
Alcohol consumption and breast cancer risk in the Women's Health Study. 女性におけるアルコール摂取と乳癌の危険性の検討	
執筆者	
Zhang SM, Lee IM, Manson JE, Cook NR, Willett WC, Buring JE.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Am J Epidemiol. 2007 Mar 15;165(6):667-76.	
キーワード	
アルコール摂取、乳ガン、前向きコホート研究、受容体、エストロゲン、プロゲステロン	
要 旨	
<p>目的： 女性における中等度アルコール摂取と乳ガンの危険性について検討する。</p> <p>方法： 乳癌および循環器疾患未発症の女性 38454 人(Women's Study cohort (米国、1992-2004 年))を平均 10 年間、追跡した。ベースライン時にアルコールを含む食品摂取状況を調査した。追跡期間中に 1484 人の乳癌発症 (浸潤癌 1190 人、内膜癌 294 人) を確認した。</p> <p>結果： 1 日あたり 30g 以上のアルコール摂取の調整相対危険度は全乳癌 1.32(95%信頼区間 0.96-1.82)、浸潤乳癌 1.43(95%信頼区間 1.02-2.02)であり、アルコール摂取量が多いほど乳癌発症の危険性が増加していた。これらのアルコールによる乳癌発症の危険性の増加はエストロゲン受容体(ER)陽性かつプロゲステロン受容体(PR)陽性腫瘍に限り認められた。(1 日 10g のアルコール飲酒あたりの調整相対危険度は ER+PR+1.11(95%信頼区間 1.03-1.20)、ER+PR-1.00(95%信頼区間 0.81-1.24)、ER-PR-0.99(95%信頼区間 0.82-1.20)であった。また、これらの関連は閉経後ホルモン療法を受けている患者でより強いようであったが、閉経後ホルモン療法の交互作用は認められなかった。</p> <p>結論： 女性における中等度アルコール摂取は乳癌発症の危険性を増加すると考えられる。</p>	